

M-6-1-26

資料名 滿洲森林の現況と將來の林政・興安省呼倫貝爾地方に於ける鹽、曹達及漁業・興安各省産業概觀

出所 日滿實業協會

作成年 19360129

寄贈者 編者

受入

注記 45P 22×15cm

昭和十一年一月

滿洲森林の現況と將來の林政
興安省呼倫貝爾地方に於ける鹽、曹達及漁業
興安各省産業概觀

日滿實業協會



寄贈者

日滿實業協會

昭和十一年二月三日

滿洲森林の現況と將來の林政

一、現有滿洲森林面積及蓄積量

森林地域名	森林面積		立木		蓄積量		摘要
	萬町步實數	指數%	針葉樹(萬石)	潤葉樹(萬石)	合計(萬石)	指數%	
鴨綠江流域 右岸連江流域	九〇	二	一三、〇〇〇	三〇、三三七	四三、三三五	三	四〇一
松花江流域	一四五	四	四〇、一五八	五〇、一五三	九〇、三一二	六	六〇八
豆滿江流域	八三	二	一六、二三七	二七、一二二	四三、三六〇	三	五〇五
牡丹江流域	六三	二	二一、一九三	二〇、九〇一	四二、〇九五	三	六六三
拉林江流域	六三	二	一〇、三七三	一九、七四一	三〇、一一四	二	四七四
北滿鐵路 沿線地方	二四三	七	二七、三八八	六五、〇七六	九二、四六五	六	三六七
三姓地方	五二九	一四	九〇、四六一	一七一、三九八	二六一、八六〇	一七	四九七
大興安嶺	一、四〇〇	三九	一八六、六六四	三七三、三三五	五六〇、〇〇〇	三七	四〇〇
小興安嶺	一、〇〇〇	二八	一一六、六六五	二二三、三三四	三五〇、〇〇〇	二三	三五〇
合計	三、六一六	一〇〇	五二二、一四三	九九一、四〇四	一、五一三、五四七	一〇〇	四一九

しつゝあるかを知ると共に、興安嶺東部地方民の安住の生活を思ふ時、興安嶺森林の絶大の恩恵に對して感謝すべきなり。

興安嶺森林樹種ノ利用價值

大興安嶺森林を形成せる樹種には

ダフリカカラマツ (一名落葉松)

シベリヤ赤松 (蒙古赤松)

白樺

黒樺

蒙古柞

ドロノキ類

柳類

榆

ハンノキ

等なれ共分布區域最も廣く且代表的樹種は、「ダフリカカラマツ」及白樺なり。

之等の二種類の分布状況は前述の如く、三階段を形成し其の上境界は落葉松の純林をなすものなり。

而して之が分布は全面積の七五%と稱せらるゝを以て、總想定蓄積量五十六億石中落葉松の現在蓄積は四十二億石を占むるものなり。

故に大興安嶺森林は四十二億石を占むる主林木落葉松の利用價值如何によりて、該森林の價值は左右さるべきなり。

今左に北滿材の用途工業的特性及重量を示せば左の如し。

(イ) 北滿材の樹種別用途

樹種別	用途
紅松	建築材、家具材、船舶材
落葉松	建築材、橋梁、船艦、枕木、坑木、電柱、帆柱、器具其他バルブ原料
蝦夷松	建築材、ビール箱、茶箱、燐寸、製紙等
鹽地	船材、器具、農具の柄、車輪、枕木、ベニヤ板等
白樺	農具の柄、其他器具材、薪材、ベニヤ板等

ハルニレ	碗、盆、斧柄、車軸、椅子、机、ベニヤ板、貨車材料
黄ハダ	銃床、裝飾材、内皮は藥品或は染料
胡桃	銃床、盆小細工材、椅子、火鉢、ベニヤ板等
白楊	燐寸軸木、貨物包装箱、火薬用木炭、製紙原料
カシハ	客車用、指物家具用、ベニヤ板等
楓	指物家具材、寄木細工等
菩提樹	燐寸軸木、鑄造用模型等

(ロ) 北滿材の工學的特性

類別	樹種	乾燥限度に於ける比重	一平方呎に對する硬度(砵)	一平方呎に對する強度(砵)	保數	燃力一砵	一立方呎
軟質針葉樹材	紅松	〇・四二八	三八〇	六八六	一・〇五六	四・三三二	六二・一〇〇
	蝦夷松	〇・四六二	三一〇	七七五	一・一〇〇	四・一六一	五六・三〇〇
	銀樅	〇・三三一	二六五	五七八	一・二五八	四・一九二	四九・八〇〇
硬質針葉樹材	落葉松	〇・七二九	四三五	一・一三四	一・六一三	四・一四四	八四・九〇〇

軟質闊葉樹材		硬質闊葉樹材	
ヤマナラシ	〇・四九〇	三〇〇	七五七
菩提樹	〇・五三〇	三三〇	八六六
白楊	〇・四一三	三八〇	七六〇
柳	〇・五八〇	一・二四三	七五二
カシハ	〇・七七六	一・〇七九	八六〇
鹽地	〇・六三一	六七五	一・〇一五
榆	〇・五五〇	五六〇	一・四一三
楓	〇・七三二	九四〇	一・五三七
樺	〇・六五八	七四〇	一・七一八
胡桃	〇・四七四	三七〇	一・〇七〇
黄ハダ	〇・四七六	四五〇	一・五四五

(ハ) 北滿材一立方呎の重量 (單位は「フント」一フントは四〇九・五五に相當す)

類別	樹種	未乾燥モノ	乾燥セルモノ
針葉樹	紅松	五五	三五
	蝦夷松	五五	三三

故に現在之等の調査は全く未成なるも、將來調査完了の曉に於ては相當面積に涉り、諸種被害森林を發見するならんと思惟す。

大興安嶺地帯は其の延長實に一千籽に渉る大森林にして、其の總面積一千四百萬町歩、總蓄積量五十六億石と稱するも、之は推定に依れるものにして實際調査の結果は其の蓄積に於て半減するに至らん。少くとも今日之が森林計畫に當りては二十八——三十億石を基準として施業するを妥當なりとす。

興安省の森林行政は滿洲國成立茲に三年を閱するに拘らず、森林行政制度確立せざる爲ながら舊政權時代惡政の延長の觀あり、只其の間消極的に盜伐の禁止、新規伐採出願者に對し制限を加へつゝある如き消極手段に過ぎずして一つとして積極的林政機關の設置を見ず。

以上の如き狀況の下に在るが爲に、滿洲國成立と共に舊態を脱し將に更生せんとせし、大興安嶺一千四百萬町歩の森林資源も今や荒廢の極に達せんとしつゝあるなり。

現在主なる伐採地を示せば次の如し

- 1 嫩江水系を利用し搬出し得る伐採地
布西以北甘河上流地方
- 2 北鐵西部線により搬出伐採地

阿榮旗及布特哈旗中の森林地帯

何敏河上流地方

海拉爾河上流及其の支流々域地方

- 3 索倫奧地に於けるもの

五叉溝地方

右伐採地域に於て伐採せるものゝ内、現在伐採権ありと稱され居るものゝ如し。尙之等は目下林場權整理法により審査中なり。

興安省呼倫貝爾地方に於ける鹽、曹達及漁業

一、鹽及曹達

呼倫貝爾地方一帶に散在する湖沼は多く、鹹水若は苦鹹水を含有し草原に於ては、噴出し地面に白く凝結した曹達を各所に於て散見することが出来る。

天然曹達及鹽を噴出せる附近は無毛地と化し、夏期綠色の草原を旅行する時は一目にてそれと知り得べく、殊に海拉爾を出る西南一六〇軒「チャブスノール」湖附近に於て甚だしく遠望する時は、恰も降雪せる雪の如く白皚々たる様を呈してゐる。

海拉爾より甘珠爾廟を通ずる道路附近及甘珠爾廟より貝爾湖に至る間に於ても、雨水を湛へた溜り渚にも白く凝結した曹達を見ることが出来る。

斯くの如く當地方一帶には各所に於て鹽及曹達分を含有せる水を噴出し、自然的産業の根幹を形成してゐる。當地方一帶の砂礫及粘土中には常に多少の鹽分曹達を含有してゐる事實と、北滿至る所に曹達分を含有してゐる地帯の分布せることは、之れ太古當地方が海水に掩はれてゐたことを證するも

のとして、地質學上興味あるものである。

食鹽採取の行はれつゝあるは「バインイル」湖と「バインツァンイル」湖とである。前者は「チャブスノール」曹達湖を距る七軒の地にあり、後者は「バインノール」湖を距る北東二千軒の地にあり。

「バインノール」湖に於ける採鹽は「呼倫黑龍江省官銀號白銀諾爾鹽鹹工廠」と稱し滿洲中央銀行の出资により行はれてゐる。

採鹽は六、七、八の三ヶ月間になし、其の産出量は五千袋乃至七千袋位なり。産額は降雨量の多少に依つて増減され雨量少なき時は産額が増加するのである。同湖に於て採取せらるゝ曹達は、冬期結氷せる湖面を割りて湖底に結晶せる曹達片を掘起し採取するのである。年産は一萬二千布度内外である。

「バインツァンノール」湖に於ける採鹽は蒙古人の自由採鹽にて、採鹽法は全くの原始的に行はれ、蒙古人の湖畔の水なき所に於て特種の掻集具を用ひ鹽を掻き集め自の需要に供してゐる。

採鹽は五月から九月迄の間に行はれ産額も明白でない。天然曹達の採取は海拉爾の西南「チャブスノール」湖に於て行はれてゐる。

湖面の大きさは幅員一籽長さ一五籽ある。同湖の天然曹達は水下より採取するものにして氷を割り然る後湖底面より曹達片を掘起し採取するのである。採取せる曹達片は湖畔にある精製工場にて煮沸沈澱せしめ一定形に凝結せしめるのである。

品質は概して良好にて「炭酸ナトリウム」(三八、九%)を含有し、英國の結晶曹達(二〇%)及米國カリフォルニア産(二〇%)に比し遜色がない。只其の採取竝に精製が原始方法に依るため不純物の混入多く不潔なるを缺點とす。之れ本品が地元たる北滿市場に於て漸次外國品に驅逐せられるに至つた主なる原因である。

食鹽の如きも品質粗悪にして而も夾雜物多き缺點を有し居るも、之は主として採取竝に精製方法を改善し、科學的經營法を採用すれば、將來は相當見込みあるものと思惟す。

海拉爾に於ける鹽一甫度の販賣價は一圓六十錢内外、曹達は一圓内外にて當地方一帶滿洲里、札蘭屯間の範圍内に販路を有し販賣されてゐる。

海拉爾への出荷方法は牛車を使用し、一麻袋(七、五布度)に付一圓及一圓八十錢を要し、税金は一麻袋に付四十錢を課せられてゐる。

但し曹達は採取の高に係らず年に千元を徴收せられ、運賃は一塊に付七十錢内外である。

現況を數字的に示せば次の如くである。

科 目	數 量	單 價	金 額	摘 要
一ヶ年生産額	七、〇〇〇 _{甫度}	一・六〇 _元	一一、二〇〇・〇〇 _元	海拉爾に於ての價格とす
海拉爾への運賃	一〇、〇〇〇	一・〇七		一袋(七・五布度入)の運賃
現在貯藏高				滿洲中央銀行海拉爾支店にあるもの
一甫度當稅		四〇		

曹 達

科 目	數 量	單 價	金 額	摘 要
一ヶ年生産額	一、七〇〇乃至二、〇〇〇 _{封度}	七〇		一塊に要する運賃(四―五甫度)
海拉爾への運賃	一、〇〇〇 _塊			滿洲里より札蘭屯間に於ける消費高
消 費 高	三、〇〇〇 _塊			中央銀行海拉爾支店にあるもの
現在貯藏高				

旗公署に於て採掘する場合

前述するが如く採掘量より消費量の僅少なるとは、精製未熟なる爲夾雜物を多く保有するが故、外國品に驅逐されるを最大原因と思料す。

依つて此の方面の専門技師を一名雇傭し、化學的に精製せば優良品を得る事明なるを以て、逐次外國品を壓倒し市場を獨占するに至るものと思料せられ、販路を研究せば南滿方面へも移出可能にして有望なる事業と確信す。

之に要する費用見積書は少額なる爲略す。

二、漁業

緒言

呼倫貝爾地方に於ける烏爾順河の克魯爾河、所謂呼倫湖水系の漁業は省内屈指の一大産業なりしが、魚類の濫獲は漸次魚類の減少を來たし、年と共に衰滅の状態にあり。然るに貝爾湖、哈爾哈河に於ける漁業は二十數年前より中絶し、天與の富源が今日に至るも、社會より顧られず放置せられてゐるのを甚だ遺憾とす。想ふに政治的地方不安と開發に必要な資金の缺如とが、貝爾湖に於ける漁業開發を遅延せしめたるに非ざるかと考へられる。貝爾湖の漁業開發は當旗の最大有力なる資源として必

要缺く可からざるものにて、透徹せる經驗と豊富なる資金を以て、經營に當らば必ずや成功するものと確信す。

貝爾湖附近は今尙人煙稀薄にして、昔時より居住するものは遊牧を生業とする僅少の蒙古人のみに限られ、彼等は其の宗教より魚類を捕食することを嫌禁し居たるを以て、魚類は湖沼河川に自然的に増加して其の數夥しく、全く自然の養殖池たるの感がある。

漁撈の沿革

前述せる如く蒙古人は一般的には漁撈を戒めて之を行ふことを禁じて居たが、湖邊に居住する貧民は其の生活を續けるためには隠れて漁撈する者ありしが、其の方法たるや極めて幼稚にして單に手にて捕ふ程度のものなる故、其の捕獲數も自ら食するに足る位であつた。然るに此の自然養漁地帯も露人の侵入に依て攪亂されてしまつた。淡水魚に嗜好を持つ彼等は無數に西伯利亞より侵入し來りて春を俟つて、烏爾順河附近に集つて湖水から遊出する魚類を捕へた。

一九〇三年蒙古人の哀訴に依て發布された東支鐵道長官の漁業禁止令も、露人側の反對に遇ひ即ち「呼倫貝爾の漁業は當地方の産業開發に重要なるを力説し、漁業禁止令の不當を叫び」其の解禁を迫

れる結果、露支兩國の交渉となり、一九〇五年支那は遂に漁業許可を正式に令するに至つた。斯くして烏爾順河の漁業は旺盛となり、一九〇一年より一九一四年に至る頃は全く其の黄金時代を呈するに至つた。當時烏爾順河には三十餘ヶ所の漁場あり、夏期の漁撈期には三十萬甫度の漁獲を得た。

而して夏期捕へた生魚は養漁地に放養して、冬期結氷を俟つて再び之を捕へて市場へ出したのである。

ウルシエン河の水流は一九一五年頃より漸次減少したる爲め、漁撈高も亦減少し一七年頃よりは殆んど魚類の遊出するものなく、各漁場も全く衰滅するに至つた。

烏爾順河漁場の滅亡は漁業家をして呼倫湖に注目せしむるに至つた。此の前貝爾湖の豊富なる魚類に注目して同湖に漁場を開設せしものありしが、一二年蒙古人の襲撃に遇ひ爾後同湖に手を出すものが無かつた。呼倫湖の漁場は一九一五年頃より建設せられ、其の後十數年盛んに漁撈せられたるが、今日に於ては當時程旺盛ではない。然し魚類亂獲の結果は今日の魚形を少にし、又一周一回の漁撈に對しても昔日の漁撈高を求むることが出来ない。

尙嘗て歐露、西伯利亞方面に輸出されてゐた同地方の魚類が、露西亞の混亂に依て販路を失ひ、

一時漁撈家を失望せしめたのであるが、間もなく東支鐵道沿線及南滿地方に販路が開拓せられるに及び、再び愁眉を開き今日では南北滿洲に販路を有する様になつた。

漁場の水系説明

烏爾順河は貝爾湖より流れて呼倫湖に注ぐ全長百三十軒の河で、河幅十五乃至二十米あり、本河は克魯倫河に比し稍々清澄なる水を有して居る。而し貝爾湖より流出してゐるために貝爾湖の水量が増加すれば勢本河の流れも盛んであるが、夏期旱魃等の爲めに貝爾湖が著しく減少すれば本河の水流は殆んど皆無となる。

貝爾湖と呼倫湖との間は坦々たる曠野であり、其の間を流れる本河は自然河床の變化を來たす事が甚だ多い。

呼倫湖の水系に於て最も早く漁業の行はれたのは本河であつて、一九一六年頃は夏期の水量相當に多く漁業場として注目されたのであつたが、一九一七年頃より水量漸減したる爲め、本河の漁業は頓挫するの止むなきに至つたが、一九二三年秋より再び水量増加したので一九二四年より再び漁場として露支人の注意を惹くに至り、現在に於ては最も有望視されてゐる漁場である。貝爾湖は海旋爾の西

南二百籽、外蒙と呼倫貝爾との境界にあり、幅員四十籽、長さ六籽、面積三十四方里最大水源六米の淡水湖である。

湖底は砂土にして東岸には砂丘連り絶壁をなせる所あるも、南北西は平坦にして所々砂丘がある。哈爾哈河は湖の東北隅に入り、此の湖唯一の水源であつて他に注入する河川がない。

湖水の流出口は哈爾哈河の河口の北方一籽の地點にあり、烏爾順河となつて呼倫湖に注いでゐる湖には魚類及び貝類多し。

以上述べたるが如く呼倫湖水系は呼倫貝爾に於ける漁業の中樞なるは勿論、滿洲に於ける淡水漁業中に於ても最も有望なるものにして、當局者としては特に注視研究に價するものありと確信す。

魚 種

同水系に産する魚類の主なるものを擧ぐれば左の如し。

1 鯉 (露名サザン)

鯉は呼倫、貝爾地方の湖沼、河川至る所に生棲し居るが、呼倫湖、貝爾湖には特に多く漁撈上重要なる魚種である。呼倫湖には一尺以上のもの多きが貝爾湖には二尺以上に及ぶもの多く、爲に

烏爾順河漁場に於ては巨大なるものを見ることが出来る。

2 鮒 (露名カラス)

鯉と共に呼倫湖水系に多く、同水系漁業中鯉に次ぐ重要な魚種である。

3 鯰 (名ソム)

冬期夏期を問はず漁撈せられ脂肪に富むを以て露人は之を愛好する。

此の外、白魚、チチウカ、シチウカ、タイメン、レシチエルシ、等の魚類が無類に棲息してゐる。

産 額

呼倫湖水系漁場の豊漁及び不漁は呼倫貝爾の漁業を左右する程にて、滿洲里に出廻りし昨年中の魚獲高は

呼倫湖 三二〇、〇〇〇甫度

克魯倫河 二五、〇〇〇甫度

烏爾順河 五五、〇〇〇甫度

の巨額を示してゐる。

漁撈期及漁撈法

二〇

漁撈期は湖沼、河川に於て差があり、呼倫湖では主として冬期の漁業が行はれ、烏爾順河、克魯倫湖では春より秋迄即ち夏の漁撈が行はれてゐる。

呼倫湖、貝爾湖の漁期は夏は五月より九月迄、冬期は十一月中旬より二月下旬迄である。

烏爾順河は呼倫湖、貝爾湖と異なり、全く夏期の漁業により、其の時期は春解氷直後より秋結氷前迄である。春解氷に伴ふ河川の増水につれて、冬期酸素の欠乏したる水下に閉込められて居た産卵期にある魚類が、一齊に川に出る數は夥しいので、四月中下旬より六月中旬に至るこの期間が主なる漁期である。

河川にては河水が減少すると遊出する魚類が少なく、降雨等の爲め増水すると急激に其れが増加する。秋十月中旬結氷期迄に河川を上下する魚類が一般に増加する。従つて春期漁撈期に思はしくない時には、この秋口を俟つて春の不成績を補ふのである。漁撈法は左の如くである。

曳網は全般に夏期の漁業に使用され、河川のは小網にして湖沼のは大網である。呼倫湖では大網だから網を曳くに回轉臺を利用し、河川に於ては人力を用ふ。呼倫湖の冬期漁業は氷を破つて穴を穿ち

網を入れるのであるが、矢張り曳網とあるべく只氷の凍結ある爲め、夏期の曳網に比し一寸變つた手段を採る。

河の漁場にて養漁地より漁撈する方法は、呼倫湖の冬期に於ける方法の小規模なるものである。此の外に懸網、掬網、漁罩等がある。

漁場の組織

一、建物

事務所、宿舍は概ね同一建物にして、只内部を區別したもので、宿舍の廣狹は其の特網數及一日の漁撈回數により、家屋の良否は漁場により差があるが、要するに冬期の寒さを凌ぎ得る程度のもので、此の建物は湖岸に設け北方に丘を脊負ふ位置が好いのである。物置は夏期漁撈網其の他機具類を格納するに必要である。蹄鐵工場は冬期凍結せる湖上に使役する馬匹には特別の氷上蹄鐵を附せねばならぬ關係上必要である。

二、使用人及び動物

漁網一張に要する人員は湖沼にて二十六人乃至三十人、河川にて八人乃至十人位を必要とする。馬

は湖沼漁業に於ては十頭内外を要し河川にては二・三頭にて足りる。

三、漁 撈 具

湖沼と河川に於て大差ある。河川漁業は小規模にて足り、又湖沼漁業に於ても冬期漁業と夏期漁業とでは、夏期漁業は極めて簡單である。

四、養 漁 池

河川漁撈に於ては缺く可からざるものにて、夏期漁撈せる魚類を放養し結氷と共に再び漁撈し凍漁として市場へ出すのである。養漁池は大抵舊河床を利用し河水を流導して作られる。

魚類の販路

呼倫湖水系の漁場經營者全部が其の本據を滿洲里に有して關係上、魚類の取引は殆ど滿洲里に於て行はれてゐる。滿洲里市場に出廻る魚類の數量は、夏期に少なく冬期に多い。烏爾順河及び克魯倫河の養魚池より搬出せられるもの及び呼倫湖より漁撈せられる凍魚が出廻るから取引も活況を呈してゐる。養魚池の魚類は結氷後氷を破碎して撈り凍魚として出るのであるが、之は十二月中旬迄には殆ど出廻り取引を終る。

呼倫湖の漁業は十一月中旬以後開始せられるから、凍漁の出廻りは十一月下旬以後である。凍魚の運搬は馬車又は駱駝に依り殆んど請負である。

運賃は漁場からの距離に依り一布度に對する金額を定むるも、各年馬車數、降雪等の多少により一定しなす。

滿洲里に於て凍魚の取引をなす商人は殆んど齊々哈爾、哈爾濱、安達、滿達より赴き買付を行ふと同時に魚類を各地の需要地に向け發送する。

魚類の移輸出は一九一七年迄は殆ど西伯利亞向輸出が大部分を占めてゐたが、露西亞の革命後は頓に減少して一八年からは漸次東支鐵道沿線地方の需要を増加し、二年以後には全く販路を南北滿洲に持つ様になつた。

斯くして齊々哈爾、安達、對青山、哈爾濱、寬城子及び其他各驛に向けられ、特に寬城子行魚類は新京滿鐵附屬地の滿人仲買人の手により轉じて南滿各地に送られてゐる。南滿に於ける販路は新京、奉天、開原を最たるものとし、公主嶺、范家屯、四平街、遼陽、海城、營口、之に次ぎ遠く大連、錦州、天津方面へ輸出せられることもある。

尙新京には大賚、扶餘縣より松花江、嫩江の凍魚が出廻るが、數量に於ては滿洲里産の比ではない。

魚類の價格

呼倫湖水系にて漁撈せられる魚類は全部滿洲里市場に集まり取引せられてゐる。魚類の價格は一般に夏期に於て安く冬期は高い。冬期に於ても一月以前に高く一月以後に安い。而して舊正月以後には一段と下落する。夏期の生魚は腐敗し易く保存困難で遠方に販路を求むることが出来ないから安く搬出される。量も滿洲里市場で賣却し得る量だけである。冬期は凍魚として長期の貯藏に耐え運搬に便なる故、如何なる遠距離と雖も供給し得る故、各地に於て需要あり勢ひ價格も夏期の捨値相場をはなれて上騰し一定の價格を保つのである。

養魚池より撈るものは圈魚と謂ひ、十一月中旬より出廻るのであるが、呼倫産のものより幾分安價である。但し圈魚は形大なると、呼倫湖産の魚類に先立ちて魚價の高き時に出廻るので割合有利に取引されてゐる。

魚類別に價格を示せば左の如し（一甫度に對し）

魚種	一等品	二等品	三等品	備考
鯉	五・五〇	五・〇〇	四・〇〇	漁撈高に依り多少の差あり 新京方面にては上記以上の高價にて取引されつゝあり 白魚タイメシ共に新京方面に出廻る
鮒	二・〇〇	一・五〇		
白魚	三・五〇	二・〇〇		
鯰	二・二〇	一・二〇		
タイメシ	二・五〇	二・〇〇		

漁業の將來

前述の如く目下漁業の行はれてゐるのは呼倫湖、克魯倫河、烏爾順河である。貝爾湖は現在漁業は行はれず自然養魚池の立場にある。呼倫湖は貝爾湖と烏爾順河により魚類の補給を受けてゐる形である。

呼倫湖を中心とした漁業の盛衰は、前述の如くである。然して現在の漁業は呼倫湖二十六ヶ所、烏爾順河二十五ヶ所にして漸次増加を示して居り、その産額も近時急激の増加を示してゐる。

亂獲漁撈の結果、呼倫湖、烏爾順河、克倫河の魚形が小になり、又今日漁撈高が往時の旺盛時に比

して減少したりとは謂へ、現在貝爾湖の漁業が行はれず、自然養漁池の如くなつてゐるのと、呼倫湖は「ムウトヌイ河」が有名無實なるため湖水の出る道なく、而も克魯倫河、烏爾順河の水を入れて居るを以て年と共に湖水面増大し水深も増し、魚類の蕃殖を好都合ならしめてゐる。従て漁業上の生命維持となるのである。

貝爾湖の漁業は古くより企業家の間に唱論されてゐるが、許可権が外蒙政府にありと稱せられて居た關係上未だに漁業権を得たものなく、従て呼倫湖水系漁業將來は一に貝爾湖に於ける漁業権獲得と開發に在る。貝爾湖漁業権の獲得、販路の開拓、經營の合理化、漁撈の統制、及び投資が圓滑に行はれるに於ては將來に於ても相當の盛況を續け得ることと信ずる。

貝爾湖漁業を旗公署にて經營する案

上述の如く貝爾湖の漁撈は、呼倫貝爾に於て森林と相俟ちて二大資源をなすものなるを以て、個人の一利權屋に許可して市場を壟斷せしむることは當局として最も注意を要することと思料す。依て旗公署財政救済の目的を以て、公共團體たる旗公署をして漁業經營に當らしむるが當を得たるものと思考す。今旗公署に於て漁業を爲すものとして見積書を作製するに左の如し。

支出經費概算表

科 目	數 量	單 價	金 額	備 考
漁場建築場	1	元	1,000.00	事務所、漁夫小屋、物置
漁船	4	400.00	1,600.00	
捕魚網	2	190.00	380.00	
馬車	2	600.00	1,200.00	
水杆	150	45	6,750.00	
廚房用具	1	800.00	800.00	
打網用具	1	200.00	200.00	
條子	150	300.00	300.00	
馬水輪	1	300.00	300.00	
馬草料	1	150.00	150.00	乾草刈取に用ふる費用
皮靴	20	80.00	1,600.00	
起圈網	1	200.00	200.00	冬期養魚池よりの漁撈に用ふ
蓋房用材	1	200.00	200.00	
板子	1	500.00	500.00	

興安各省産業概観

緒言

今回外蒙共和國との會商を機會にラヂオを通じて興安各省即ち興安東省、西省、南省、北省の四省の産業に就きまして其概略を御紹介申上ぐる機會を得ました事は誠に欣懷と致す所であります。

興安各省が地理的事情並住民の關係に於きまして、滿洲國の他の十省とは著しく其趣を異にして居る地域であると云ふ事は已に充分御承知の事と思ひます。産業に於きましても亦然りでありまして、興安各省を除きました他の十省が農業地域として發達し、又將來に於ても農業の基礎の上に凡ゆる産業の開發が行はれて行くべき事は云ふ迄も無いのでありますが、我興安各省に於きましては尠しく之と事情を異にし農業は夫の一部に行はれておるに過ぎず、寧ろ産業と云へば直ちに牧畜業を考へると云ふ程一種の特色を持つてゐるのであります。勿論之は地域を主とした見方でありまして、主として牧畜を營んでおります。蒙古人と農業に従事して居る漢滿人とを人口の上から比較しますならば左程の著しい差異は無いのでありますが、然し農業に用ひられて居る土地と牧畜に用ひられて居る土地の

面積を比較し、又産業としての重要性を比較して見ますならば到底問題にならぬのであります。之は興安省の風土氣候その他の自然條件及牧畜に従事して居る蒙古人の社會組織並民族性がその營む牧畜業に極めて原始的な遊牧形態を採らせて居る處に、斯の如き特性が生れてゐるのであります。而も此の如き産業の特色は滿洲國にとりまして、非常に大きな意味を持つてゐると云ふ事は後に申上げる處によりまして御了解を願ひたいと存じます。次に興安各省に於ける天然資源に就き概略申上げますれば、豊富な埋藏量を持ち將來有望な礦物資源としては金、石炭等があり、又天然の特産物として著名なものに鹽、曹達等の鹽類、並に甘草其他の藥草類を多量に産出し將來特殊な産業の發達を暗示して居ります。又興安北省には呼倫湖、貝爾湖後に後者は今回の事件に深く關係を持つ湖でありまして、その二大湖沼があつて古來魚族の棲息が豊富な事を以て知られて居ります。更に將來滿洲國にとりましても又興安省にとりましても重要な意味を有つ資源としては、大興安嶺山脈地帯一體を蔽ふて居る森林でありまして、誠に文字通り千古斧鉞を入れざる一大密林地帯を形作つて居るのであります。先に少しく農業に就きまして申上げましたが、最近に於きましては蒙古人も亦農耕に従事するものを見るに至つておりますので、近き將來に於ては蒙古人の經濟的覺醒と共に漸次に普及發達を見、所謂有畜農業或は農牧混交せる新たな形式の農業が發達し來ると云ふ事が豫想せられて居ります。工業及

其他の産業は資源の豊富なるにも拘はらず、未だ發達を見るに至っておりませぬ。之は滿洲國建國以前の所謂東部内蒙古竝に呼倫貝爾、その他蒙古の地が鎖國状態にあつたが爲でありまして、只僅かに獸毛加工業、城鍋業、燒鍋、緬鋪業等が二三の地に存在するに過ぎませぬ。然し乍ら今後資源の開發政治、教育、交通通信機關等の發達に伴ひ諸多の産業の勃興は必然でありますから、興安省が滿洲國産業經濟上に占むべき地位は、誠に刮目に値するものがある事は申上げる迄も無い事であります。

次に只今概括して申上げた事項に就き、各項目毎に稱々詳細に申上げて御參考に供したいと思ひますが、一言御斷りして置きたい事は、先刻も一寸申上げた如く建國以前の蒙地は鎖國状態にあつた關係と、政治機關の不備の爲産業その他に關し整備した資料に乏しく、建國後に於て初めて之等の調査に著手せる次第であります。關係上統計等も推測に基くものが相當に多く精密な調査が行はれるに従ひ、只今申上げる數字の二倍、三倍に上るものも尠くない事と想像せらるるのであります。此點豫め御諒解を願ひ各論に入りたいと思ひます。

一、牧畜業

蒙古人の在る處必ず牧畜が行はれてゐると申しても大なる誤では無く、家畜の飼養が唯一の生業

となつてゐるのであります。その然る所以は蒙古人の衣食住の大部分が家畜によつて支へられてゐると云ふ事實に基くものでありまして、従つて家畜が主なる財産であり、家畜の頭數が富の程度を示してゐるのであります。蒙古人にとつては貨幣を持つておつても財産が殖えると云ふ譯には參りませぬが、家畜を持つておれば年々仔を産して殖えて行き、又如何様にも利用する事が出来るのであります。蒙古人より家畜を奪ふと云ふ事は或意味に於て、その生命を奪ふと云ふ事に等しいのであります。即ち蒙古人の凡ゆる社會生活が此の牧畜と云ふ事に繋つてゐるのでありまして、此點蒙古人を理解する上に於ても又將來の指導上に於ても、極めて重要な事柄であります。興安各省の地域は夫々の特性を持つており、勿論凡てが純牧地帯で無いことは云ふ迄もありません。然し乍ら北省の三河地方以北を除く大部分西省の北部、南省の興安嶺山麓地方の如く廣漠たる草原地帯に於ては、所在に放牧の群を見るのでありまして、家畜の頭數の如きも羊一百二十萬頭、牛三十五萬五千頭、馬十九萬四千頭と推定せられ、滿洲國全體の總頭數に對し、夫々五四%、二三%、一〇%に當つてゐるのであります。之等家畜の分布の状態は最も牧畜の盛な北省に於ては、推定頭數羊七十六萬頭（興安全省の六四%）馬十二萬二千頭（興安全省の六三%）牛十二萬頭（興安全省の三四%）駱駝五千二百頭（興安全省の七五・四%）に及び、就中新巴爾虎左右兩旗に最も多く、陳巴爾虎、索倫旗之に亞いでゐるのであります。

す。尙北省には舊北鐵沿線に滿人飼養の豚及騾も相當數に上るのを見るのであります。西省に於ては近年農耕地の擴大するにつれ純牧者の減少を見たのであります。尙推定頭數羊三十萬八千頭（全省の二六%）牛十四萬三千頭（全省の四〇%）馬四萬頭（二〇%）駱駝一千四百頭（全省の二〇%）を算へ、巴林右翼旗に最も多く阿爾科爾沁旗、走什騰旗之に亞ぎ、又南省に於ては匪賊の被害を受ける事多く南部地方に特に甚しいのであります。尙推定頭數羊十一萬五千頭（全省の一〇%）牛八萬頭（全省の二三%）馬二萬二千頭（全省の一二%）に上り、科爾右翼前旗、科爾沁左翼中旗、札賚特旗の順序であります。東省に於きましては近年耕作地の増加につれ牧畜者減少し、加ふるに匪賊の被害著しく家畜數は激減し頭數の如きも、推定牛九千三百頭（全省の三%）馬九千頭（全省の五%）羊一萬頭（全省の一%弱）にすぎませぬ。

以上で大體興安省に於ける家畜頭數に付き申述べましたが、次に之等家畜の特性並畜產品に就きて少しく申上げて見たいと思ふのであります。蒙古人の飼育する羊は主として緬羊でありまして、皆多少の山羊を混牧してゐるのであります。之は一般に山羊より緬羊の方が有利な爲斯様になつております。然し山羊の方が強健で飼ひ易い爲土地や草の關係上、緬羊の飼育困難な場合には、山羊を多く飼育する様な状態になつております。蒙古緬羊は長尾種中脂肪種に屬し、巨大な脂肪尾を持つて

おるのが特徴であります。毛色は普通白色であります。黒又は褐色の斑點を交へたものも尠くないのであります。羊毛は粗毛を多く混じ産毛年二封度乃至三封度にすぎませんが、蒙古人にとりましては、羊は日常食糧品として牛乳及その製品と共にその肉を食し、一般に牛豚肉よりも美味とされております。又その毛皮は防寒用被服として用ひられ、その住んでゐる蒙古包の覆及敷物として羊毛の氈子を使用する等、直接生活資料の給源となる最も重要な家畜であります。牛馬以上に多數飼養されるのであります。蒙古羊は斯様に重要なものであります。遺憾な事には先刻申上げました如く羊毛の品質は粗毛多く、従つてその用途も下等絨に混用するか、又は毛布用として用ひられるにすぎず用途は極めて狭い範圍に限られ、商品としての價值も貧弱であります。關係上、蒙政部に於きましては緬羊改良事業に對しては最も力を注いでおります。之と共に頭數の如きも一千萬頭を目標として増殖計畫を立て將來國內に於ける羊毛の供給は、興安省のみでも充分間に合ふ程度に致したいと考へてゐる次第であります。大同二年即ち一九三三年に於ける管内出廻數量を御參考迄申上げますと、羊毛約二萬擔羊四萬七千頭、羊皮十一萬五千枚と云ふ事になつております。次に牛に就き申上げますと所謂蒙古牛でありまして牝牡共に暗赤色、赤斑色、虎色が多く、蒙古人は之を搾乳用及食用に供する外、物資運搬用の役畜として用ふる關係上、羊に次で重要な家畜として飼養されてゐるのであり

ます。即ち牛乳は羊乳と共に蒙古茶に混じて日常の飲料として用ひられる許りでなく、之より黄油、奶豆腐、奶皮子、奶酒等を製し極めて營養價の高い文明的嗜好食品を作つて使用してゐるのであります。

蒙古牛は堅忍従順であつて良く粗惡な飼養管理に耐え、又體質強健であります爲、激しい勞役に服しても屈する事なく、各種傳染病等に對しても亦抵抗力強大であると云ふ長所を有してゐるのであります。但し遺憾乍ら之亦羊同様土産種その儘であつて、何等の科學的改良も施されておらぬ爲、體軀矮少にして晩熟であり、肉量、泌乳量、泌乳期間等何れも先進文明國のものに比し、劣つてゐるのであります。今後の改良に俟つものが甚だ多いのであります。牝牛は凡て蕃殖用に供せられるのであります。牝牛は優良なもののみが蕃殖用に供せられ、その他のものは二才で去勢され、牛車を曳かせて運搬用に使用するかその他の勞役に使用され、六才乃至七才で肉用として賣却せられるのであります。蒙古牛の出廻りは北滿沿線又は多倫、赤峰、錦州等を経由して北支方面にも相當輸出せられるのであります。南滿方面へは例年約三萬頭、大同二年に於ける海拉爾及甘珠爾市會への出廻は約五千六百頭、四洮線約二萬頭、經柵、林西等は約五千五百頭、總體で七、八萬頭に上るものと推定せられておるのであります。蒙古牛皮は達牛皮と稱せられ飼育管理の粗惡な爲品質も劣り、特に牛蠅の被害多く價格

も低く下等な革製品用に供せらるゝのみであります。將來改良の餘地は此點にもあるのであります。海拉爾その他への年々の出廻りは約二萬五千枚に上つております。

次には馬であります。馬は蒙古人にとつての唯一の交通機關であつて、蒙古人の脚は馬であると云つても宜敷しいのであります。従つて之亦生活必需品として各戸に飼養されて居りますが、純牧地帯に於きましては、殆んど乗用に供せられるのみでありまして農耕地帯に於きまして、農耕器具機械輓成用或は農産物運搬用として必須の役畜であり、馬を失ふ事が耕地を荒廢に導く最も有力な原因をなしてゐる事實と、對照して家畜の利用を通して地域の特性が誠に良く視はれるのであります。蒙古馬の特性は體軀矮小なるも四肢強靱體力強健持久力に富み、粗惡な飼養管理に耐える長所を持つております。特に管外察哈爾烏珠穆沁は良馬の産地として著名であり、競馬用として賞用せられております。管内の馬匹市場は殆んど海拉爾に限られ馬匹購入者は齊々哈爾商人を主とし哈爾濱、新京等の商人之に次ぐ状態であります。

以上を以て主な家畜に付き一通り申述べたのであります。要するに興安省内の家畜は種々の長所を持つとは云へ、何れも土産種そのまゝであつて、現在の進歩した利用に適合させる爲には、種々なる點に於て科學的改良を加へねばならぬのであります。又滿洲國に於ける一大牧畜地帯をなす興安省

としては住民の經濟發達の點からも、今後益々牧畜業の發達改良に努力せねばならぬ次第でありますので、興安各省成立以來管下各關係機關を指揮監督して飼養管理の改善牧野の改良、生産物取引機關の設置、優良品種の輸入在來種の増殖等に關する根本的調査並に立案計畫に著手し來たつたのであります。康徳元年度に於きまして興安西省王爺廟に緬羊改良場を設け「メリノー」種及「コリチール」種の基礎蕃殖羊を米國及濠洲より輸入し、蒙古種と交配して改良種の生産普及に當ることとなり、米國よりの輸入羊約六百頭は近々現地に到着する運びに至つてゐるのであります。又逐年此の種改良増殖の機關を増設普及し各種家畜の増殖改良を計ると共に緬羊に就ては増殖十八年計畫に基き改良種一千万頭に達せしめ、年額三千四百萬封度の純毛生産を實現し、蒙古人の經濟的向上と日滿兩國の羊毛需要に應ずる計畫を進めてゐる次第であります。其他畜疫防遏計畫及畜産物の販賣、牧野の改良、飼養管理の改善等に就きましても夫々各要地に於ける防疫處の設置計畫、畜産組合の設置計畫等を立案研究し、萬善を期してゐる次第であります。

以上を以て牧畜業の概況を終り次に林業に付き簡単に申述べます。

二、林業

興安省に於ける天然資源としてその數量に於て、又將來開發上の價值に於て他に匹敵するもの無き

迄囑望せられてゐるものは實に大興安嶺一帯を掩ふ森林資源であります。滿洲國の森林資源總體の見地から申しまして、全森林面積の約四〇——四六・七%全畜積材石の三七——五五・六%と推定せられてゐるのであります。滿洲國に於ける森林資源の消長を顧みまするに、農業移民の増加に伴ふ濫伐沙漠の飛砂による荒廢並舊本北政權時代に於ける、林政の弛緩に基く交通便利なる森林地帯の濫伐荒廢は往時滿洲全土を蔽ひたる鬱蒼たる原生密林の跡を空しく曠野と化せしむるに至つたのであります。然し今日に於ても尙長白山系、小興安嶺、大興安嶺の三大山脈を中心に之等主山脈間に介在する數條の山脈地帯に所謂千古斧鉞を入れざる美林が、部分的に尙鬱鬱として存在するのが滿洲國森林の現状であります。我大興安嶺の密林は想定面積千四百萬陌（興安全省面積の約三分一）を占め畜積量五十六億石と唱へられており、滿洲國森林の王座を占むるのであります。即ち南は洮兒河流域並索岳爾齊山より起り、北滿鐵路西部線を挟み、北は黑龍江沿岸に至る大興安嶺本支脈を蔽ひ、東は嫩江西はアルグン河に達する延長一千軒に渉る大森林を形作してゐるのであります。その林相に付き述べますれば、右森林中約五〇%は密林地帯、租林地帯、散生地帯は共に各々約二五%樹種の分布は針葉樹（樟樹）としては「タフリカカラマツ」、（油松）「シヘリア赤松」、（樺樹）「白樺」「柳類」「白楊」「柞樹」、（黄花松）「タフリカカラマツ」、（油松）「シヘリア赤松」、（樺樹）「白樺」「柳類」「白楊」「柞樹」等

であります。多くは「白樺」^(樺樹)と混淆し帯状或は群状をなしてゐるのであります。混淆の割合は針葉樹七〇——五〇%闊葉樹三〇——五〇%と云はれております。

従来大興安嶺材は輸出市場との距離遠く、立木地帯の僻遠なる地にあつたこと竝に北滿鐵道の高率運賃とに禍され採算合はざる爲、單に北滿鐵道用材として利用される程度に止つてゐたのであります。先般の北鐵讓渡に伴ひ將來交通機關の整備運賃の低減等の事が實現した曉には、全面的に開發の機運に向ふものと豫想してゐるのであります。従つて政府としましては此の大資源の利用開發の方策を樹て濫伐、盜伐等を防ぎ林力の保持増進を計ると共に合理的經營の方策を取るべく基礎的施設の完成に意を注ぎつゝあるのであります。此の爲に先に林場權整理法を制定公布し林場の整理に著手致したのであります。更に林務辦事處等を各地に設置し、國有林の合理的經營竝に林業改良の指導監督に當らしめんと計畫しつゝあるのであります。

三、鑛業

次に鑛物資源に付き申述べますが、興安各省管内に於ける鑛物資源の豊富なるべき事に就きましては一般に豫想せられてゐる處であり、又興安嶺本支脈中には有望視される各種鑛脈の露頭が從來屢々

發見せられておるのであります。交通の不便と治安關係とにより未だ充分なる調査行はれず、明確なる資料に乏しい爲、正確なる事は判明してゐない状態であります。又現在採掘中のものも方法の原始的なると規模の微々たるものと全く試験時代の域を脱してゐないのであります。現在知られておりますものは砂金と石炭その他二・三に過ぎませんが、現在行はれてゐるもの過去に行はれたるものを擧げて見ますならば、東省内に於ては巴彥旗に甘河炭坑、和亂屯水晶坑あり(現在停止中)西省には札魯特旗に炭坑あり、巴林左翼旗には鐵鑛あるものゝ如く、又索倫を中心とする東西兩内には従來鐵、石炭の露頭の發見せられたるものがあります。北省内には北鐵接收により北滿鐵路經營より滿洲國政府に移された札賚爾炭鑛あり、又滿洲國の西南方十八籽の地點には察罕炭鑛あり、尙札賚諾爾の油田地は目下探鑛中に屬するのであります。試錐の結果は大に注目されております。吉拉林河沿岸、吉勒穆圖地方各地に於て砂金の採集が現に行はれておりますが、交通の不便、採取法、規模の幼稚な爲未だ特筆すべきものとなつてはゐない状況であります。札賚諾爾炭鑛に就きましては已に御承知の事と思ひますが、その埋藏量七千萬噸と稱せられ、一説には三億噸とも稱せられておりますがその炭量豊富なことに於て全國に於ても屈指のものであります。炭質は褐炭に屬し熱量少く粘結液に乏しく品質優良ならざる爲、市場に於ける商品としては餘り優良ではなく、只運輸關係に於て利點ある爲地方的

需要を満してゐるにすぎぬのであります。從來とても主として北鐵の需要に充てられておつたものであり、一時年産二十五萬匁を出炭したことがありますが、最近頓に激減してゐる状態であります。

四、農 業

次に興安省管内の農業に付き申述べたいと思ひますが、蒙古地帯は元來遊牧の地であり、又清朝初期以來蒙地封禁の制が施かれ、北部支那地方よりの漢人農業移民の入地を防止し純牧地帯として保護された歴史を持つてゐるのであります。従つて其農業發達の歴史も日を閲すること淺く未だ充分普及すると云ふ程度に達しておらぬのであります。勿論已に早く乾隆、嘉慶年間に於て開放され開墾農耕の行はれた地域もあるのでありますが、主としては光緒中葉に於ける封禁制の撤廢即ち借地養民の制により開放地の増大、縣治の設置と共に農業の導入が行はるゝに至つたのであります。管内に於ける農業者の大部分はかくして農地に入つた漢人農業者及その子孫によつて構成されてゐるのであります。管内に於て比較的農業の發達せる地域は南省を首位に西省、東省の順序になつておりました。北省の如きは三河地方の少數白系露人を除けば殆んど農耕に従事するものなく、交通竝に氣候風土の關係上純然たる放牧地帯をなし、農耕地として多くの期待を掛け難い状態にあるのであります。只今申述べま

した如く、目下の状態では農業者は主として滿人であり、蒙古人の之に従事するもの極めて稀な状況にあります。牧畜業の改善竝に蒙古人の經濟生活發達伸張の見地より見て蒙古人に農耕技術を授け遊牧的牧畜より近代的牧畜へ、移動生活より定住生活へと誘導することが凡ゆる意味に於て最も緊要な事柄でありますから、政府に於きましても銳意、此の方針に基きまして適切なる方策の研究に力を致しておる次第であります。次に少しく各省別に農業状況を申し上げますれば、東省に於きましては北鐵沿線に沿ふ布特哈旗竝に莫力達瓦旗の諾敏河本支流地域を主たる農耕地域として阿榮旗、巴彥旗の河川沿岸地域にも多少の發達を見谷子、小麥及その他の麥類を産し布西附近に於ては黃豆、高粱、包米等を産出してゐるのであります。既耕地面積は六二二・六平方糎と概算され可耕地の千分の五強に當つておるにすぎません。農業者としては南部地方は主として、滿人北部に進むに従ひ蒙人従業者の數を増加しております。南省に於きましては開放の歴史の古いだけに既耕地比較的廣く普及し、特に科爾沁左翼中旗以南に於て良く發達しておる状況であります。耕地面積の如きも概算既耕地一〇、八四二平方糎、未耕地一二、四三八平方糎で、既耕地の割合は四七％に上つております。従業者は滿人、蒙人兩者共耕作に従事する状況でありまして、又管内水田經營に従事する朝鮮人約二、〇〇〇人を算しております。作物としては高粱、谷子、黍の順序で大豆、包米、小麥之に次ぎ又瓜子兒の産出を以て

知られております。西省に於きましては黃海（錫喇木倫河）流域以北に耕地を見、蒙滿人共に耕作に従事しておりますが、主なる作物は谷子、蕎麥、瓜子兒、高粱、大豆等でありまして林西、二克什、克騰地方には比較的良質の粟の栽培も行はれております。耕作面積も調査未了であります。大體既耕地二、二六八平方料で可耕地の約二〇％に當つております。北省に就きましては先刻少しく申述べましたが、地味比較的肥沃なる三河地方の露人の農牧に従事する以外は特にあぐべきものなく、又一般作物の耕作も氣候風土の關係上期待出来ませぬが、然し麻類、亞麻、布等の工藝用特用作物に就きましては可能性ありと信じておる次第であります。

五、漁業

管内に於ける漁業地區は、北省の呼倫湖、貝爾湖及之に附隨する各河川竝に西省の達里諾爾を主とし、東省の甘河、諾敏河北省の額爾克納水系、南省の洮兒河、杜爾伯特、郭爾羅斯前旗に沿へる嫩江流域を擧げる事を得るのであります。魚類としては鯉魚、鯽魚（鮒）を主とし鯰、白魚、狗魚等を産しております。之等の漁業は大體に於て冬季結氷を確碎して行はれておりますが、呼倫湖の如く夏季、冬季を通じて漁獲の行はるゝもの呼倫湖水系の如く、春季解氷後より夏季にかけて行はれるものもあり

ます。使用される漁具等も或は曳網、拉網、懸網、掬網等多く使用せられております。魚類の集散地として取引數量の最も大なるものは滿洲里でありまして、呼倫湖水系の漁獲物は一旦此地に集り、後各地に仕向けらるゝ状況でありまして、冬期に於て最も活況を呈しております。販路も南北滿洲に涉り齊々哈爾、安達、哈爾濱、寬城子の各市場に仕向けられております。漁獲高は必ずしも一定しておりませぬが、例年輸出額約百二、四十萬貫と云はれ、一九二七年の如きは滿洲里及札賚・諾爾兩驛より積出された魚類は滿洲里消費量を合し、約二百二十萬貫の多きに達したと云はれております。然し乍最近は烏爾順河の減水の爲め呼倫、貝爾兩湖魚類の交游妨げられ、漁獲高を頓に減少するに至つております。

以上を以て極めて概略ではありますが、興安各省産業概觀と題する私の講演を終りたいと思ひます。御清聽を煩はしました事を深く感謝致します。

昭和十二年一月二十八日印刷
昭和十二年一月二十九日發行
（非賣品）

編輯兼發行人

篠崎嘉郎

印刷者

東京市中西區住吉町五六

印刷所

東亞印刷株式會社

東京市京橋區

二丁目十三番地

東京市麹町區丸の内三丁目十四番地

發行所 日滿實業協會

電話丸の内(28)五〇六一番

板橋區金口座東京四五八〇二番

